

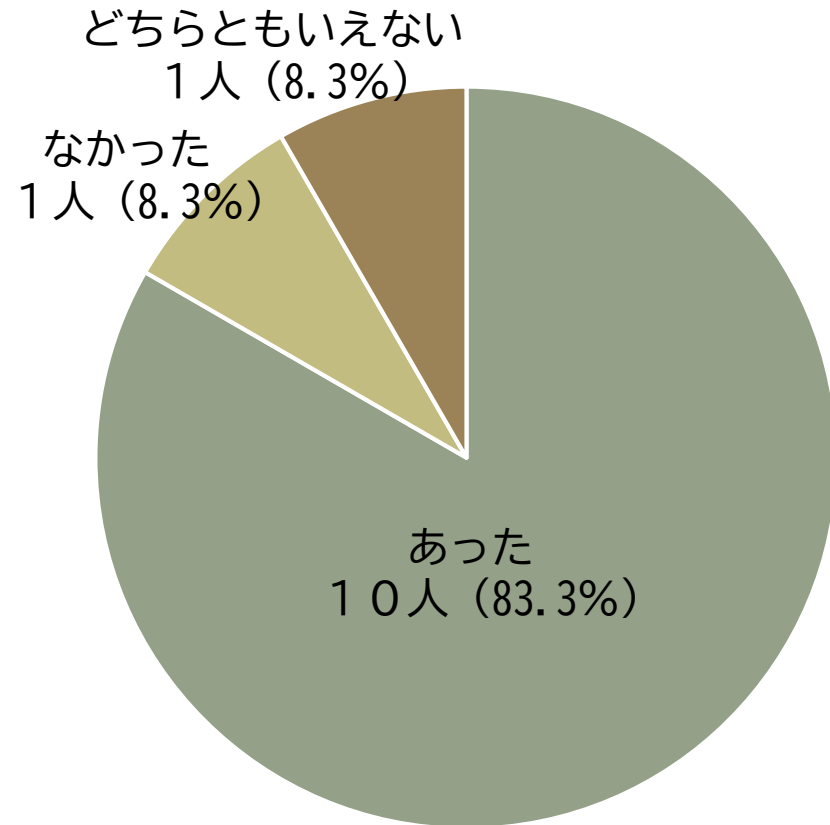
# 入間市脱炭素型ワークショップ事業 ～ゼロカーボンカードゲーム～



---

## 振り返りアンケート結果

# Q1 ワークショップを経て、日常の意識や行動に変化はありましたか。



アンケート回答者全12人のうち、10人がワークショップ後に意識や行動の変化があったと回答しました。

# Q2 どんなどころで意識が変わったと感じましたか。

参加者の皆様からは、日常生活で脱炭素を意識するようになったという回答が多くいただきました。

また、自身の行動の見直しや、省エネ等の行動につながったというご意見も多数みられました。

## 回答詳細

- ・日々の生活の中で、環境への負担が少なくなるよう考えるようになりました。一人一人の行動変容が必要だと感じ、まずは、私自身の意識と行動を変えるため、微力ではありますが、節電、節水、ゴミの分別、公共交通機関や自転車を使った移動をしました。
- ・日常生活の中でよりゼロカーボンを意識するようになりました。
- ・エコやゼロカーボンに関するニュースや情報に目が行くようになりました。
- ・日々の暮らしの中で見聞きする物事や取り組みに対して繋がりを考えるようになりました。物事への見る方向が増えたと実感しています。

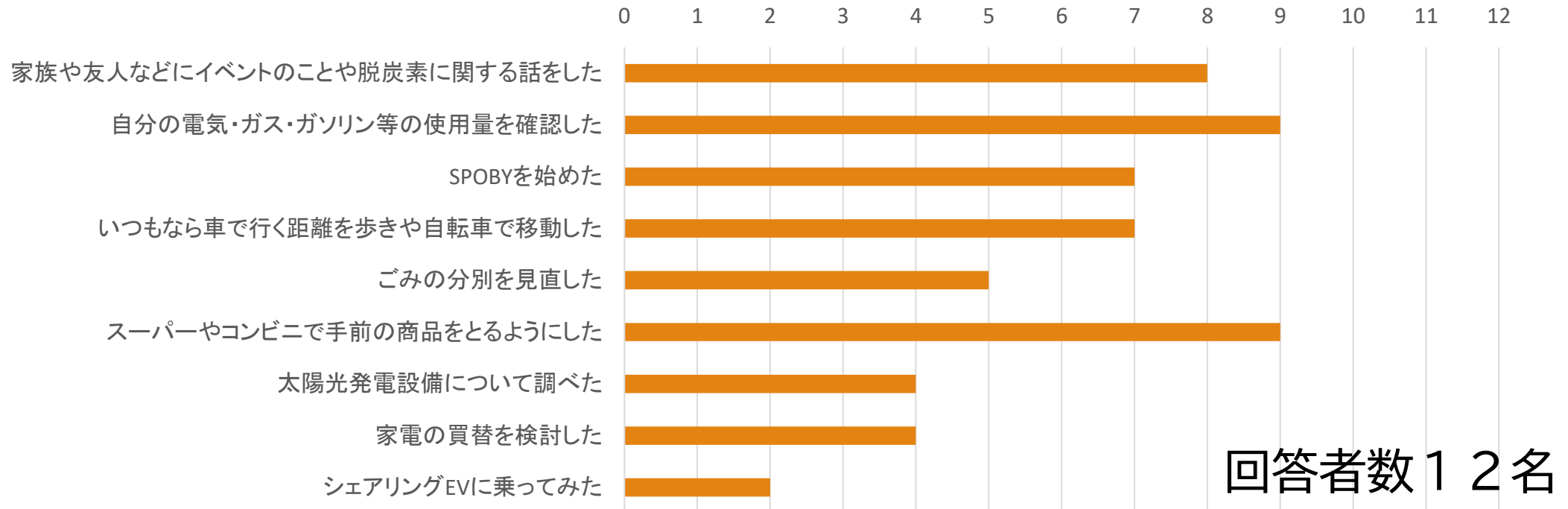
# Q2 どんなどころで意識が変わったと感じましたか。

## 回答詳細（つづき）

- ・自分の家で使用しているエネルギーについて、今までは使用料金のみ気にしていましたが使用量についても考えるきっかけとなりました。
- ・近い店への買い物はできるだけ歩くようにしました。電気をこまめに消し、暖房を付けずに、着こむようにしました。
- ・多様なアクターの行動が複雑に絡み合い結果が変わってくることをゲームで体感でき、気候変動、エネルギー問題などについて、より俯瞰的に考えるようになりました。
- ・1個人、1企業だけでは難しく、自分だけではなく第三者のこと（活動）も考えながら行動しなくてはいけないことや、行動と影響のバランスなど、言葉では伝えにくいけれど、体験してみると気付けることがありました。
- ・脱炭素という言葉自体初めて聞いた言葉であり、ご指導頂いた講師の先生方のお話を聞いて、本当に国をあげて対応しなければ本当の実現は難しいと感じました。会社で取り組んでいる節電やフードロス縮減の取り組みも、全てが繋がっていると感じ、より対外向けの対応を意識するようになりました。
- ・カーボンニュートラルを実現しても二酸化炭素濃度は改善しないことを認識しました。

# Q3 イベント後、実際にやってみた行動はありますか。

エネルギー使用量の把握やてまえどり、周囲への啓発、移動の低炭素化の項目について、過半数の方が実際に行動しました。



# Q4 ほかにも脱炭素のために実施した行動はありますか。

Q3の行動以外にも、資源循環やエコドライブ、余計なものを買わないといった行動を実施したという回答がありました。

## 回答詳細

- ・衣料品をリサイクル店に持って行きました。今までは捨てるしかないと思っていましたが、なるべくごみとして出さないように意識が変わりました。
- ・自家用車を運転する際、よりガソリンを節約するよう運転の仕方を意識するようになりました。（急ブレーキ、急発進をなくし、より少ないガソリンで長い距離を走るよう意識）今までもなんとなく意識はしていましたが、このイベントに参加したことで、意識がより強くなり、行動につながられました。
- ・衝動買いや余計なものを買わないようにしました。

# Q5 ゼロカーボンシティを目指す上でのご意見があればお願いします。

啓発イベントの実施やゼロカーボンについての周知・教育など様々なご提案をいただきました。

また、楽しく取り組めることも重要だというご意見が多く見られます。

## 回答詳細

- ・今回のようなゼロカーボンに対する意識を促進させるイベントをぜひ続けてほしい。
- ・多くの人に興味をもってもらい、一人一人の意識の向上が進み、入間市がゼロカーボンシティになればいいと思います。
- ・日常生活において窮屈となる取り組みでなく生活が豊かに便利になり楽しく取り組めるゼロカーボンシティを目指してほしいと思います。
- ・市民への周知が重要だと思います。

# Q5 ゼロカーボンシティを目指す上でのご意見があればお願いします。

## 回答詳細（つづき）

- ・次世代を担う学生たちに当たり前として擦り込む意識づくりが必須だと感じました。教育に働きかけることを積極的にお願いできたら家庭内から保護者や地域への広がりも期待できるのではないかと思います。自身が保護者という立場から見てぜひお願いしたいと思いました。
- ・目標達成するために何かを我慢しなくてはいけないという思いが強いと、なかなか行動するのは難しいと思います。その点ではSPOBYは楽しみながらできるのでいいなと思います。
- ・年に何回かエコライフデーの依頼が学校から来ますが、子どもが「二酸化炭素の削減しよう！」という意識になかなかないような気がします。（うちだけかもしれませんが・・・）理由としては、行動したことによってCO2が減らせたと言っても、なにが変わったか実感がない→なので結果が気にならないためかと思います。今回のゼロカーボンカードゲームは行動によってどう変わるか、などが楽しみながら理解でき、ぜひ子どもたち向けに授業などで実施してもらいたいと思いました。
- ・ゲームを体験した意見欄がないので、行政が聞きたい内容だけで、アンケートとしては答え難しいです。



# Q5 ゼロカーボンシティを目指す上でのご意見があればお願いします。

## 回答詳細（つづき）

- ・クリーンセンターの更新時にエコ発電の要素を取り入れて、新産業団地に電力を供給する。
- ・既存の工業団地に産業廃棄物を扱う企業が多いので、産廃業界の意見を聞く。
- ・短期的にできるもの（ハードルが低く、個人でも参画や取り組みの継続がしやすいもの）と、長期的なもの（達成できそうな目標ではあるがチャレンジングなもの）の企画と整理とわかりやすい情報発信
- ・市内の企業や団体を巻き込む活動（代表者も従業員も個人。家族、子供が楽しめるイベントなど。まず「楽しい」を刷り込む。）と、企業の取り組みの後押しとなる企画（セミナーやビジネスマッチング紹介など。）
- ・気温などの環境が類似している自治体の取り組みの良いところを取る。